

チャペル通信 107号

2017年（福祉特集8）生協の産みの親賀川豊彦とキリスト教

あなたがたは、私たちの主イエス・キリストの恵みを知っています。
すなわち、主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられました。それは、あなたがたがキリストの貧しさによって富む者になるためです。
第2コリント8章

町の中をCOOPの字の入ったバントラックを見かけますね。生活協同組合（COOP）ですが、その生い立ちにクリスチャンがかかわっていた事をご存知でしたか？日本で最初の生協のシステムは、神戸に出来た神戸購買組合でした。各家を自転車で回り注文を受け、商品を配達するという、今とかわらないシステムでした。



第一次大戦で日本の経済は好景気でしたが、その利益を一人占め出来たのはいわゆる財閥であり、経済を支えて最下層であえぎながら生活していたのは労働者でした。戦争が終わると景気が悪くなり不況の中で、そのしわ寄せをまともに受けていた労働者、いわゆる貧困者の生活改善に立ちあがったのが、明治学院を卒業して、キリスト教伝道者をめざし神戸のスラム街に身を置き、妻ハルとともに民衆の中に入って活動していた賀川豊彦でした。福祉シリーズ最終回は、もし彼の時代にノーベル平和賞があったら間違いなく推挙されたであろうと言われております、賀川豊彦です。労働運動家・平和運動家・無産政党運動家としての賀川豊彦は世に知られていますが、キリスト者としての賀川豊彦に迫ります。



認知症サポーター養成講座

主催 高津区地域見守り支援センター

6月21日（水）

10:00~11:30

於 子母口キリスト教会チャペル

どなたも参加できます。 無料 受講認定としてはオレンジリングがいただけます。



資料準備の為 044 766 0181 に電話下さい

高津区役所地域支援活動の一環として 教会を会場にして行われます。

なお当日来られない方は 6・24（土）14時~15時30分
高津区役所5Fにてでも受講できます。

新シリーズ
星野富弘の詩画
季節の花
①



星野富弘
一人しずか
ひとりにしずか

教師時代部活指導中の事故で体の自由を失った星野さんが口に筆をくわえて描いた詩画をカラーでないのが残念ですが、毎回掲載します。星野さんを世に知らしめた本「愛・深き淵より」（1882年絶版）は、当教会員であった方が社長であった立風書房から出版されました。

6月2日から18日まで 600円
銀座・教文館にて 中・小学生無料

星野さんの新作詩画展 開催中

ひとりしずか

定期集会

どなたでもおいで下さい

(日) 礼拝と学び	10:30~12:10	(水) 聖書の学びと祈禱会	19:30~
教会学校	13:30~14:30		
夕 拝	19:30~	(金) 聖書の学びと祈禱会	10:00~

編集 発行

〒213-0023 川崎市高津区子母口776

日本同盟

子母口キリスト教会

基督教団

e-mail shibokuchi@church.jp

牧師 小岩井 信 <http://shibokuchi.church.jp>

電話 044-766-0181 F A X 044-766-2157



生い立ち

1881年（明21年）賀川健一 菅生かめ の次男として生まれました。父は海運業を営んでいましたが、豊彦4歳の時に病死。母は正妻でなかったため父の実家徳島に引き取られました。妻の子ではないとの理由から冷たい仕打ちを受けました。この少年時代の悲しみが後の生き方に大きな転換をもたらしました。

キリスト教との出会い

1900年徳島中学に入学し、英語を学ぶために教会に行くようになりました。アメリカ人宣教師のローガン博士・マヤス宣教師から英語を習いつつ、二人の温かい人柄に心が解き放たれ、聖書の言葉がおのずと身に入るようになりました。その頃兄が海運業を引き継いで学費を工面してくれていましたが、豊彦15歳の時放蕩ゆえ倒産してしまい豊彦は宣教師らの薦めで家庭教師をしつつ勉学にはげみました。1904年にマヤス宣教師による洗礼を受けキリスト教徒になりました。1905年に上京し、明治学院高等部神学予科に入学しました。1907年に神戸神学校に入学しました。長尾牧師の生きざまが支えていた。長尾牧師は生活に困っている人を自宅に泊めて、きていた貧民に食事を与えるという救済活動を行っていたからでした。1909年豊彦も神戸の新川のスラム街に移り住み、救済活動を始めました。



明治学院チャペル

結婚

神戸のスラムに東京から下女として働きに来ていた女性がいました。芝ハルといいました。横浜で印刷業をしていた、村岡敬三の従姉妹に当たります。村岡敬三の妻は赤毛のアンの翻訳で有名な村岡花子です。2014年のテレビ小説「花子とアン」の花子といったほうがお分かりの方が多いかもしれません。ハルは15歳で下女に出されました。その後父が営む福音印刷会社に勤めました。父の転勤で神戸に移り、その会社に賛美歌の指導にきたのが豊彦でした。

豊彦の救済活動に共感したハルはスラムに足を運び豊彦を支えました。

1913年の5月に二人は結婚し、その披露宴をスラムで行ったのでした。



賀川豊彦とハル

伝道

豊彦は豊橋の伝道にも力をいれました。それを春が支えました。豊彦はイエス団を作りました。**あなたがたは、私たちの主イエス・キリストの恵みを知っています。**

すなわち、主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられました。それは、あなたがたがキリストの貧しさによって富む者になるためです。 第2コリント8章9節

イエス団は今日もその活動を神戸で展開しています。この言葉はイエス団の本質を貫く聖句です。「大切に思う人や事柄に対して、わたしたちは心を注ぎます。神さまは、その存在すべてをかけて、貧しくなっても、私たち一人ひとりに愛を注いでくださいます。その命さえも。それほど「わたし」という存在は尊く高価なのです。」賀川豊彦の精神を引き継いで神戸で活動しています。この教会の一部は生協の運営する賀川豊彦記念館です。（昨年訪れた時、生協会員は入場100円でした。）

豊彦はプリンストン大学に、ハルは共立神学校にともに進学しました。帰国後もイエス団の活動に力を注ぐ一方で社会の矛盾の解決に心をかたむけ、労働争議に協力しました。1923年9月1日の関東大震災には東京に駆けつけ、東京YMCAなどに働きかけて救援活動を展開しました。拠点

当時のイエス団の活動写真



賀川豊彦記念館ホームページより

となった本所には記念館があります。となりに豊彦が建てた庶民のための金融機関中郷質庫信用組合今もあります。

常に民衆の中にあってキリストを伝えようとした賀川は労働争議に失敗したあとは、キリスト教伝道とその信仰に基づく社会活動に積極的に関わり、日本救らい協会が設立されました。

農村伝道に力をいれ農民福音学校を兵庫県瓦木村の自宅に開きました。戦後、町田の農村に伝道をと清水安三に土地を提供し桜美林大学建設に協力したのも豊彦でした。（103号にて紹介しました。）

東久邇宮内閣の参与になり、貴族院議員として誠司に参与。内閣総理大臣の候補にもなりました。